

炎症性バイオマーカーを用いた 結腸がん患者の予後予測のためのノモグラム開発

背景

TNM 分類は現在最も信頼性のある予後予測因子であり、臨床的にも広く使われている。しかし TNM 分類で同じステージであっても一般にその他の因子によって患者間で予後は異なる。これまで結腸癌や結腸癌を含む大腸がん患者に対する予後予測モデルはいくつか開発されてきているが、千例を超える大規模データに基づく Stage II-III の根治術後結腸癌・大腸がん患者を対象にした予後予測モデルは少ない (Kawai et al. 2015)。また、近年、患者の全身炎症反応ががんの予後に関連することがわかってきている。予後と関連しうる炎症性バイオマーカーについては既にいくつか報告がなされているが、根治術後の結腸がん患者において予後予測モデルに含めた際に、その性能 (判別力・予測力など) を向上できるかどうかは明らかではない。課題研究では、Stage II-III の結腸がん患者に対する予後予測モデルを開発し、炎症性バイオマーカーを予後予測モデルに加えることの意義を検討する。

方法

2005 年 4 月から 2011 年末までに癌研有明病院にて根治的手術を受けた Stage II-III の結腸がん患者を用い、Stage II-III の根治術後結腸がん患者を対象にした予後予測モデルの開発を行う。まず、過去の文献を参照し、根治的手術を受けた Stage II-III の大腸がん患者における臨床的背景に基づく予後予測モデルを開発する。その後、複数の炎症性バイオマーカーに対して主成分分析を行い、新たな予後因子の作成を検討する。検討した炎症性バイオマーカーを、既に関連した臨床的背景に基づく予後予測モデルに加えて、判別力、予測力の観点からその追加したことによる性能の向上を評価する。

参考文献

Kawai K, Sunami E, Yamaguchi H, et al. Nomograms for colorectal cancer: A systematic review. *World J Gastroenterol* 2015; 21(41): 11877-11886